

刊行にあたって

編集委員長

後藤 範章

せたがや自治政策研究所の活動の一環として、2008年度より刊行しております学術機関誌『都市社会研究』もおかげさまで第7号を刊行することとなりました。特集に寄稿していただいた諸先生をはじめとして、論文、研究ノートに投稿いただいた皆様、区民の皆様のお陰によるものと存じます。また、編集にご協力いただいた編集委員会の委員や査読を担当された方々、編集委員会をサポートしていただいている事務局にも、心より厚くお礼申し上げます。

本誌刊行の目的は、一つには学術研究の発表・発信、またそれを基礎とする政策形成の基盤づくりにあります。いま一つの目的は、実践的な内容を持ち、公共の利益に資するような研究の発表・発信の場とすることにあります。従来の学術研究誌にはみられない実践的公共的性格をも併せ持つ、新しいタイプの地域発の学術機関誌をめざして発刊したものです。

今回の特集テーマは「次世代に配慮した地域環境の創造——循環型社会の実現に向けて」としています。

東日本大震災を契機に、持続可能な社会実現に向けての基本となるエネルギーについて、市民の意識や議論が大きく変化したことを背景に、環境問題について国全体の方針から私たちの身近なところまで、様々な変化が起こっています。

こうした状況において、世田谷区では、「世田谷区基本計画」の基本方針に示した「環境と調和した地域社会の実現」に向け、2015年度から新たな「環境基本計画」がスタートするとのことです。区には今後も、区民や事業者と連携し、良好な環境を将来の世代に引き継ぎ、持続可能な社会を実現すべく、力を注いでいただきたいと思います。

本号の特集には、今後の世田谷区の環境施策の取組みに資するような、次世代に配慮した環境づくりや自治体の環境施策のあり方について考えてみようという意図が込められています。

研究者や専門家、自治体職員の方々はもちろんのこと、多くの世田谷区民の方々に本誌を手にとっていただきたいと願っております。さらに、都市社会を研究対象とする全国の若手研究者が、投稿論文の本誌への掲載を名誉と考えるような機関誌に育っていくよう願っています。

最後に、今後も投稿者、読者の方々をはじめ、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。第7号刊行のご挨拶といたします。